



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
医療保護施設・地域医療支援病院

総合病院 聖隷三方原病院

SEIREI MIKATAHARA CENTRAL HOSPITAL

おおぞら

第202号

2021年5月1日発行

発行責任者 荻野和功

編集者 木部哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

コロナ禍にあつて

人を思いやる心

副所長 望月信丈

今年は124年(1897年)ぶりに2月2日が節分だった。我が家も恵方巻を食べ、保育園で作った鬼のお面を付けた孫の動画や写真を見て、最後に「福は内、鬼は外」をやって今年の節分は終了した。



鬼と言えば毎年話題になるのは節分の時期と決まっているが、今年は違う。社会現象にもなった、特殊な鬼と人間が戦うアニメ映画の大ヒットがあつたからだ。漫画を殆ど読まない60を過ぎた私でさえ、息子夫婦に誘われて感染対策を万全にして映画を鑑賞した。映画のラストでは主役の台詞に感動し思わず涙を流す有様だ。原作は新型コロナ

ウィルス感染拡大以前から某漫画週刊誌に連載されたものと聞いているが、まさに新型コロナウィルスは映画に出てくる特殊な鬼のように人から人へと感染し変異を繰り返していき、その鬼と戦う人間はこの瞬間も医療福祉現場の最前線で患者の命を救おうと献身的に医療・介護を提供している従事者達だ。

昨年から続く新型コロナウィルス感染拡大は、世界全体で死者数2,808,308人(4月2日現在)、日本国内でも9,193人(4月1日現在)に達し、世界史に残る大悲劇となつてしまった。死者数だけで比較しても、阪神淡路大震災の6,434人を大きく上回っている。国や自治体も新型コロナウィルス感染対策に医学者や政治が中心となつて戦っているが、中々思うようにならないのが現実である。また、コロナ禍にあつて各分野の専門家による感染拡大対策の論

争をよく視聴する。「人命優先か・経済優先か」という議論を視るたびに感じたことは、両方大事であるという専門家がほとんどであることに、この人たちと自分とは価値基準が違うことを痛感した。

そこで、改めて「経済」という言葉のルーツを調べてみた。一般的には社会が生産活動を調整するシステム、もしくは生産活動を指すエコノミーと言っている。語源を少し遡ってみると「経済」とは、「世の中を治め、人民を救う」ことを意味する「経世済民」の略語と解説されていることから、経済＝人命と理解しても間違いではない。前述の論争では多くの専門家が両方大事と回答していることから、人命と経済は別物という認識で、経済を生産や経営活動あるいは金儲けとしてとらえているように感じてしまう。人を救うという意味は何処へ行つてしまったのだろうか。

の禁止など様々な感染対策措置は、ご利用者やご家族に大きな負担と不安をおかけしている。出口が未だ見通せない現実を考えると、ご利用者の健康的な日常を守るため今後もこうした対策を継続することにご理解とご協力を頂きたい。

また、おおぞら療育センターの運営母体の聖隷福祉事業団も、新型コロナウィルス感染拡大の影響により大変厳しい結果を残すこととなった。世界中が楽しみにしていたオリ・パラリンピック東京大会の開催に影響をもたらしただけでなく、緊急事態宣言等による国民の自粛意識は国内企業の経営全般に与えた影響は大きかった。国難とも言うべきコロナ禍の中で大手企業は経営難を乗り越えるため、採用活動の縮小や雇用調整など様々な費用抑制策を打ち出している。聖隷福祉事業団もこうした大企業と同様に現実の業務や作業効率等を改めて検討することで、事業団90年の有史が未来に続くことが出来るように取り組むこととなった。経営改善の策として、事業の効率や無駄を見直すことを否定するつもりはな

横地分類

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

〈知的発達〉

E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可

〈特記事項〉

C: 有意な眼瞼運動なし
 B: 盲
 D: 難聴
 U: 両上肢機能全廃
 TLS: 完全閉じ込め状態

〈移動機能〉

戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可
-------	-------	-------	-------	------	-------

いし、むしろ常に必要なことととらえている。テクノロジーの進歩により、手術支援ロボットや新しい介護機器の導入は現場の戦力として機能しているが、聖隷福祉事業団は地域社会に安全で質の高い医療福祉サービスを提供することで90年を迎えることが出来たと思う。確かに医療福祉事業は産業種別分類ではサービス業に位置づけられるが、どんなにITやテクノロジーが導入され経営効率が進化しても聖隷が提供するサー

ビスは、最後は人の力によって達成されるサービスであることを忘れてはいけない。地域のニーズに対して、我々は安全で質の高い医療福祉を提供することがその責務を全うすることである。利他の心を持って医療福祉の道を選んだとするなら、聖隷福祉事業団の大理念でもある「隣人愛」の道を歩みたいものである。聖隷福祉事業団の力の源は人であり、それは最も大切なものである。



「へーい」「わかりました」という本を語り掛けました。物語の中で、先生が「わかったか？」と聞いて生徒が応えていく場面では、「はーい」「へーい」

ごだまの

日常活動

中田 亮

Aさん（横地分類A1）はリビングで過ごしている。と人の動いた方向に顔を動かす、人の動きを見ていることがありません。また話しかけたり笑い声が聞こえると顔や視線を向けて聞いており、TVから音楽が流れたり、バラエティ番組などにぎやかな声が聞こえると表情を緩めることがあります。活動では「どろぼうがっこう」という本を語り掛けました。物語の中で、先生が「わかったか？」と聞いて生徒が応えていく場面では、「はーい」「へーい」

と返事が続くと表情を緩めて聞いていました。語尾が伸びるような言葉や次々とテンポよく続いていく語りや面白く感じました。場面に合わせ、静かな語りが続くようになると今度は職員が顔をじっと見て動きを止めて聞いていました。「ぬきあし さしあし しのみあし：」と生徒が歌うように口ずさむところになると静かな語りとのリズムの違いを感じたのか口角を上げた。よい表情になっていました。生徒達が暗闇の中で声を掛けあう場面では、声のトーンが下がったり、ひそひそ話のような小さな声になったりと語りかけの声の調子が変わっていきます。すると、Aさんは徐々に真剣な表情になりじっと聞いていました。場面の中の雰囲気の変化を感じているように感じました。

陰圧室を 整備しました

春日 三千代

2020年2月、国内で新型コロナウイルス（以下、コロナ）による感染症が確

認されました。聖隷おおぞら療育センター（以下、おおぞら）では、地域の感染情報をもとに感染対策会議を開催してきました。おおぞら内で、感染者が発生したときに備えゾーニングをシミュレーションしたり、コロナ対策一色だったと言っても過言ではありません。おおぞらの利用者は、気管切開や人工呼吸器を装着している方も多く、感染しやすい状態にあります。今までも、インフルエンザ流行期に職員と利用者がインフルエンザに罹患し大変辛い思いをしました。今回、浜松市の障害者総合支援事業費補助金をうけ、おおぞら内に陰圧管理できる居室（以下、陰圧室）8部屋、



職員向けの取扱い説明の様子

及び移動可能な陰圧装置4台を整備することができました。おおぞらの利用者の障害や医療的ケアに合わせ、1号館あすか・すばる、2号館こだま・うらら、3号館あおば・ほのか・ほくと(2部屋)の居室を改装し、陰圧管理しないときは、通常の居室と変わらず使用できます。



感染対策について 元木実希

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策に追われた1年でした。新型コロナウイルス感染症は、今後の事業運営の方向性をあらためて考える機会となりました。おおぞらは、重度の運動障害と知的障害を併せ持ち、超重症児に代表される濃厚な医療ケアを必要とする人たちの「生活の場」です。利用者は日中、居室からリビングへ出て他の利用者と一緒に過ごします。そうすることで、利用者は人との関わりを経験し、より人を感じられる環境になるからです。しかし他利用者と共に過ごす環境



では、感染リスクの問題が生じることが考えられます。そこで利用者の生活を支援する上で、大事にしていること(生活の質)を守りつつも、利用者の生命を守るための長期的な感染管理を検討し、実践してきました。

まず一番基本的な、感染対策の手指衛生の徹底に取り組みました。手指衛生は、人から人へ病原体が移動するのを遮断します。スタッフは、手指衛生剤を常に携帯する事にしました。そうすることで、病原体を運ぶ前に手指衛生を行うことが容易に出来るようになりました。WHOの推奨する手指衛生剤を使用するタイミングは、「患者に触れる前」「清潔・無菌操作の前」「体液に曝露された可能性がある場合」「患者に触れた後」「患者周辺の物品に触れた後」の5つです。

職員が、この5つタイミングに手指衛生を意識してすることで、利用者へ病原体を運ぶ機会を少なくするよ

うに努めました。次に、利用者が体調不良を起こした時の対応です。利用者が発熱時など体調不良になった時、日中生活を制限し、他利用者に広げられないよう居室で過ごすようにしました。感染対策を強化する時期を見極め、速やかに対応をし、他利用者に感染しないようにしています。



職員の対策として、日々の体調確認と共に、飲食を行う休憩室を職場毎にわけるようにしました。休憩中の飲食は、マスクを外しませんので、感染するリスクが高まります。万が一感染が起こった時、他職場に感染を拡大させないための対策でもあります。飲食は、同じ職場の人と一定の距離をとっています。

現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、入所家族の面会を中止しています。義務教育である学校関係者、入所・在宅サービス(ショートステイ・通所)は感染状況をふまえ、制限

しながら継続をしています。このような外部から来られる方に対し、各職場に入る前に体温などの体調確認を実施しています。職場内に病原体を持ち込まない、持ち込ませない努力を行っています。利用者は、入所施設であるおおぞらで、生涯生活をします。利用者の生活出来るだけ制限することなく、集団生活の中で感染管理をすることが求められます。利用者に関わる職員一人一人が、感染対策を実施し、感染状況にあわせ柔軟に対応することが生活の場での感染対策ではないかと考えています。



よろしくお願いします



異動者
 2号館…沖村宏美 (看護師)
 3号館…野末晃広 (看護師)
 3号館…植田小百合 (看護師)

新入職員
 あおば…植棺仁南 (生活支援員)
 ほくと…小野島あも (生活支援員)
 すばる…三ヶ田侑以 (生活支援員)
 あおば…宗利真奈 (生活支援員)

2021年度新入職員・異動者

3月異動者
 3号館…漆戸直子 (看護師)
 1号館…数内明子 (看護師)

新入職員・異動者

通所あさひ☆音楽会

2月に通所あさひの各グループで職員による演奏を披露しました。

- 合唱 …「オーシャンゼリゼ」「大切なもの」
- トーンチャイム …「エーデルワイス」「オーラリー」
- キーボード&マリンバ …「見上げてごらん夜の星を」



合唱では声の重なりが繰り返されると口元を緩めにこやかな表情や、体を揺らして聴いていました。

トーンチャイムの音は穏やかに聴き、「あー」と嬉しそうな声が出ていました。

流れるようなキーボードのリズムとマリンバ連打のリズムが流れると、職員の方に顔を向け大きく表情を緩ませていました。マリンバの弾むような音がつづくにつれて聴き入っていました。

利用者さんたちはそれぞれが楽しんでいる様子でした。



苦情解決委員会

2020年10月～12月

公表する苦情はありませんでした。

	1月	2月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	47人 (231日)	46人 (221日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	19人 (81日)	20人 (74日)
実習者数 (グループ数)	0人 (0グループ)	0人 (0グループ)